

## 第49回大月市生涯学習推進大会 シンポジウム記録

### ■ 趣旨説明 【 大月市社会教育委員 小坂 英夫 】

シンポジウムに先立ちまして、大会の主旨と経緯について、簡単にご説明致します。今大会は、5回に渡る社会教育委員会において、大会のテーマや、内容を審議して参りました。

大会の主旨として、まず身近で資源でもある農業や観光に関心を持ち、いろいろと実践して行く中で「学び」を見いだし、その成果を生かすことで、心に充実感や豊かさをもたらし、それが生きがいや人づくり、仲間づくり、地域づくりへと繋がり、ふるさと大月の明るい未来を創り上げていくことをお感じいただければと思います。また、実際に行動を起こすための情報や自分なりの生涯学習を見つけるきっかけを得て、何かを始めてみようという意欲を高めていただくことを今大会のねらいとしています。



### ■ シンポジウム開始

#### 【佐藤コーディネーター】

皆さん、こんにちは。大月短期大学の佐藤と申します。ここからは、司会の方からバトンを受けまして2時間余りでしょうか、シンポジウムのコーディネーターを務めさせていただきますので、何卒お付き合いの程宜しくお願いいたします。

今回のテーマですが、今司会の方からもご案内がありましたが、「ふるさと大月の未来を創造しよう」となっています。特に農業と観光での学び、生涯学習を皆さんと一緒に考えてみましょう。という内容でシンポジウムを進めさせていただきます。一昨年は環境ですね。昨年は農業。その農業に今年は観光というテーマが加わりまして、農業と観光で考えていきたいと思えます。いきなり余談になってしまうのですが、つい先日東南アジアのタイのバンコクへ行ってきました。久しぶりの海外渡航だったのですが、知らない土地に訪れますとやはりハラハラドキドキ刺激的なことがあります。東南アジアですので、都市化がグングン進んでおる一方で、タイでは暴動が起こってビルが燃えて廃墟となっているようなところがありまして、いろいろな刺激を受けて帰ってきた次第です。昨日ちょうど私のゼミの学生が卒業前ということで、私のところに遊びにきてましてその学生に聞いたところ、その女子学生7人で韓国に卒業旅行に出かけてきたとか、グアムに行ってきたとか、アルバイトのお金を貯めて海外へ卒業旅行へ行ってきたとのこと。ある男子学生は山梨の思い出として、山梨を車で一通り回ってきて忍野八海や昇仙峡へ行ってきたということを聞いたりしました。学生も観光という視点で、学習という意図はないと思いますが、そこにいろいろな学びや気づきがあったのではないかと思います。そのような観点で今日は観光、農業も付け加わりますが、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

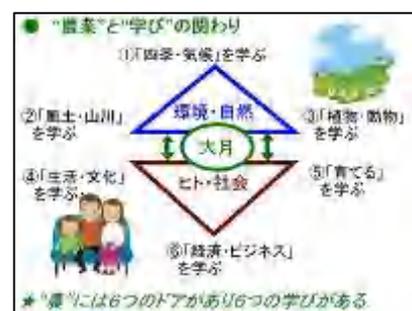
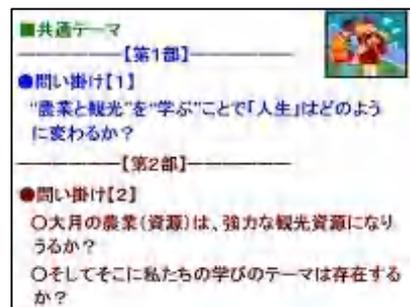


これからパネリストの方にいろいろな活動報告をしていただくのですが、その前に簡単に今日の主旨というのを私なりに少しまとめてみましたので、お話をさせていただきます。

今日は、第1部、第2部の2部構成でいきたいと思います。その中で2つの問い掛けを今回用意してきました。1つ目は農業と観光を学ぶことによって、私達や皆さんの人生はどのように変わるか、まさに生涯学習の本分なのですがこれを考えていきたいと思います。

3人のパネリストの方のご発表を通じてこれを是非考えていきたいなと思います。2部は町づくりの観点で考えてみたいと思うのですが、問い掛け2ということで、大月の農業は強力な観光資源になるのだろうかということを皆さんと会場の意見交換を踏まえて考えてみたいと思います。そしてそこに私達の生涯学習としての学びのテーマが存在するのかということと一緒に考えて、まさに今日の大きなテーマである「ふるさと大月の未来を創造しよう」というところに繋げていきたいなと思いますので、そのような観点で聞いていただければ、あるいはシンポジウムに参加していただければありがたいなと思います。したがって2部で構成されていますので、大きく前半後半に分けていますが、休憩はございませんので、席を外したい場合は、皆さんのご判断で休憩をとっていただければありがたいと思います。2時間の長丁場になりますので、皆さんのペースで参加していただければと思います。宜しくお願いいたします。

それでは早速でございますが、第1部の農業と観光を学ぶことで皆さんの人生はどれだけ変わっていくかということと一緒に考えていきたいなと思います。その前に少し考えをご案内したいと思います。最初は農業について考えてみたいと思います。実はこのパネルは去年も出させていただいたスクリーンですが、農業を考えたときにいろいろな学びがあるのではないかと思います。大きく分けて農業に携わることによって大月の環境や自然を学ぶということ、大月の人や社会を学ぶということ、さらに6つ、環境・自然であれば四季、気候を学ぶ、大月の風土、山川を学ぶ、大月の植物、動物を学ぶ、農業に携わることでこういう学びがあるのではないかと思います。一方、人や社会に関してもいろいろな学びがあります。大月の生活、文化を学ぶ、育てを学ぶ、人間関係を学ぶというのもここに入ります。そして経済、ビジネスを学ぶ、これは私の本分でもありますが、こんないろいろな学びがあると思います。それを是非パネリストの活動報告からいろいろな気づきを持ち帰っていただければと思います。前置きがすっかり長くなってしまいましたが、早速パネリストの方の発表に移りたいと思います。



## ■ 第1部 パネリスト発表

### 【 佐藤コーディネーター 】

最初の発表は、地域づくりグループの渡邊勲さんの発表でございます。昨年大会にご参加された方は覚えていらっしゃるでしょうか。大豆づくりの発表をしていただいた中村順一郎さんの発表がありました。今日は同じグループで活動されています渡邊さんの発表をいただきありがとうございます。その後の大豆づくりとか納豆づくりがどうなったのかという状況を報

告いただきながら、ご自身の農業に係わる学び、生涯学習を発表していただきたいと思えます。発表のタイトルは「大豆に魅せられていい汗かきました」という内容のようです。では渡邊さん宜しくお願いします。

【 パネリスト 渡邊勲 氏 】

こんにちは。賑岡町浅利におります渡邊勲と申します。宜しくお願いいたします。パソコン操作がございますので座って失礼いたします。皆様もご存知のように農業は1年や2年で結論が出るものではありません。まして、私達のような素人集団ではなおさらのことです。そこで本日は大豆栽培のその後についてお話をさせていただきます。

農業とは関係ございませんが、私は趣味としてシニアのソフトボールや、昨年から男性合唱団「桂川グリーンマジカ」の門をたたきました。音が外れ、メンバーにご迷惑をお掛けしていると思いますが、私にとっては楽しみの一つとなっております。

それでは本題の大豆作りの理由について改めてご説明させていただきます。私達が何故、大豆を作るかと言いますと、皆様ご存知のように大豆は肥料もいらず、比較的簡単に栽培できること。そして豆腐、納豆、味噌など、いろいろな物に活用できること。さらには畑の肉と呼ばれ、栄養バランスも良く、生活習慣病の予防にも向いていること。何ととっても大月市内に納豆製造所があり、地元産大豆での納豆ができること。そして少しでも耕作放棄地が解消でき、身近な環境保全に繋がること。こんなことから、大豆作りを行っています。

昨年までは地大豆や、青大豆を作っていましたが、今年度は一駅逸品に登録されている富士納豆代表の星野さんと相談し、納豆を念頭に入れて納豆用の品種となる「こすず」に初挑戦いたしました。こすずの種は、代表の中村順一郎さんがJAから購入いたしました。大きさは、5～6ミリ。大粒大豆の約半分です。主に、長野以北で栽培されている品種とのことです。

私達は栽培面積の拡大を図るため宮谷の畑をお借りすることになりました。きっかけは、平成21年の豆腐作りがご縁で、広さは10アール。約1反歩です。実は借りると決意するまでには、「借りたは良いが草がたくさん出てきて草ぼうぼうとなったり、笑われ者にならないか」、「うまく出来るか」など、不安と期待が交錯し、中村さんと悩みました。ですが、志をもった以上はやろう。ということでお借りすることになりました。この畑は眺望がよく、こちらの方に三つ峠や富士山が見え、とても気持ちのいい汗をかきました。とは言え、妻からは「自分の畑で精一杯なのに、よその畑の分まで出来る訳がないだろう」と猛反発をうけました。妻の心配も、私の年齢や体を思っていることと思い、心の中では感謝したところです。私はまだ66歳



**大豆に魅せられていい汗かきました**

- 平成22年度
- 大月市生涯学習大会
- 平成23年3月6日(日)

発表者 渡邊 勲

**趣味として**

- ソフトボールや合唱にチャレンジしています

**何故大豆を作るのか**

- 肥料もいらず比較的簡単に栽培出来る。
- 豆腐・納豆・味噌など汎用性が高い。
- 畑の肉と呼ばれ、栄養のバランスも良く生活習慣病の予防に繋がると思われている作物。
- 大月に納豆製造所があり、その特産を生かした地元産大豆での納豆が出来る。
- 耕作放棄地の解消で身近な環境保全に繋がる。

**「こすず」の種を購入**

- 納豆用の大豆「こすず」に挑戦し、
- 種は中村順一郎さんが、JAから購入しました。
- 大きさは5～6ミリ、大粒大豆の約半分です。

**宮谷農場栽培準備**

- 平成21年の豆腐作りのイベントがご縁で、宮谷の畑をお借りすることになりました。
- 広さは約10アール、1反歩です。
- 眺望に恵まれた畑でいい汗をかきました。

です。曾根綾子さんの「老いの才覚」という本に、「人間は死ぬまで働かなければいけない」と書いてありますが、いかがでしょうか。

次に種蒔きから、刈り入れまでの作業工程と共働状況、学び体験についてご説明させていただきます。

いよいよ種蒔きです。何しろ初めての「こすず」ですから、カンニングではございませんけれども、インターネットで検索して北陸農政局というところに問い合わせを行いました。色々の中で教えていただいて、畝幅は機械に合わせて85cm、株間20cmで植えてみました。そんな素人の私たちの様子を見て、畑のオーナーのHさんが心配そうに眺めていました。

植えつけをし、1週間もすると、浅利、畑倉、初狩、宮谷など、市内10カ所で一斉に芽が出てきました。こちらです。自然のパワー、命の営みに感動した一瞬です。頑張れ「こすず」！そんな思いでエールを送りました。

さて、芽がでた後は草取りです。私たちは安心、安全の食を目指しているので除草剤は使わず、人海戦術で草取りを行いました。口で言うのは簡単ですが、去年は猛暑。目の前がグラグラしましたが、弱音を吐くわけにはいきません。そんな活動を耳にして、仲間が一人二人と増えていきました。最初は平均年齢60歳を超えるメンバーでしたが、今日も会場にいらっしやいますけれども、30代の若い仲間も加わってくれました。そうした協働作業で、能率も徐々に上がってまいりました。草取りは2回、3回と必要ですけれども、何しろ暑いので、仕事を持っている人も朝作りで参加してくれました。畑に行くたびに気を遣ってくれた宮谷のお母さんには、本当に感謝申し上げます。今日会場にいらっしやいましたら本当にありがとうございました。また、畑のご近所の方もお声を掛けていただきました。サラリーマン時代では味わえない、汗ぐっしょりなのになぜか爽快な気分になりました。そんな重労働の私達の仕事を見て、大豆仲間のKさんが、畝にあわせて土寄用の道具を作ってくれました。これには大いに助かりました。これがそうですけれども、大変頑丈にできております。

9月中旬、さやが、あちこちの畑でついてきました。大豆名人のSさんにも畑を見てもらい、アドバイスをいただきました。また、私たちが耕作している大豆畑を見て、「この上にうちの畑も空いているので使って欲しい」という声も聞こえてきました。その背景にあるのは、「年を取って畑をしたくてもできない、食うに困るわけでもないし、食べる量も少ないので、結局買った方が安い。それでも畑が荒れるのは気になる」とそんなお話をしておりました。これは高さを測っているところですが、今のところ順調に育っています。収穫が楽しみです。

### いよいよ種蒔き

- インターネットでこすずを使えば、北陸農政局に問い合わせアドバイスを受けました。
- 畝幅は機械に合わせて85cm、株間は20cm。
- 畝幅を縦1つつき。
- 畑のオーナーHさんもお心配そう？



### 芽が出てきました

- 6月下旬から7月上旬にかけて、浅利・畑倉・初狩・宮谷など市内10カ所、約50アール、5反事に約200㎡が種蒔きされました。
- 白粉のワフーは強い芽が出ました。
- 命の営みに感動！「がんばれ「こすず」」



### 草取りです

- これは大変。特に今年の量は猛暑。
- 私たちの活動に賛同したKさんのご声援、農業は全く初めてのHさん、畑倉宮谷畑倉のHさんもお加わりしました。
- 草取りは人海戦術、大いに助かりました。
- 一人では大変でも協働で作業が楽そう？



### 暑い暑い何しろ暑い猛暑

- 草取りは予定通りでしたが、何しろ暑い。
- 畑におくたびれに気づいてくれた畑倉のお母さんお喜びです。
- 近所の人も協力の声を掛けて下さいました。
- サラリーマン時代では味わえない体験、汗ぐっしょりなのに爽快な気分になりました。



### 土寄せ用道具が大活躍

- 大豆畑の近江商研のKさんが、ワフーの作り方を詳しく教えてくれた土寄せの道具を作ってくれました。
- 草取りと土寄せはかどり、大いに助かりました。文明の利器に感謝・感謝。人のつくりネットワークの有様さを感心しました。



### さやが付いてきました

- 9月中旬さやがあちこちの畑で付いてきました。
- 大豆名人のSさんにもアドバイスを受けました。
- 最近の大豆畑を見て、うちの畑も空いているので使って欲しいという声も聞こえてきました。



### 順調に育っています

- ここまでは順調な成長。
- 収穫が楽しみです。



ところが大変です。浅利農場に鹿が侵入しました。一夜にしてこのように全滅です。もちろん猪や鹿除けのフェンスを張ってあったのですが、鹿もまた生きていくために一生懸命です。残念ですが、諦めるしかありません。これは鹿のフンです。夏のあの暑い日の草取りを思うとガックリきました。昔は民家のそばまで鹿や猪がくることはありませんでしたが、これも里山の変化ではないでしょうか。

さて、いよいよ収穫です。「こすず」は早生種で、刈り取った大豆は、昔ながらの方法で手で叩きましたが、ホコリはすごいし、山のような大豆の殻に囲まれて、どうしようと途方に迷いました。そんな折、大豆仲間の生産者のプロの方から脱粒機があるという話を伺いまして、早速JAからお借りしました。取りに行くと2000円でしたけれども大変作業が捗りまして大いに助かりました。

さて、やっと収穫が終了したのでイベントの紹介をさせていただきます。農業は地味な仕事ですが、楽しみもないと長持ちしません。

最初の紹介は、昨年12月市民会館主催の豆腐作り教室の様子です。このイベントでは私達が作った大豆を使っていたきました。

次は納豆です。富士納豆製造所様のご協力により、こすず大豆による納豆の試作品を作っていただきました。これは私の手で選別しているところです。私たちは勉強のため納豆の製造過程を見学させていただきました。朝6時暗いうちにお邪魔した時には既に作業に入っておりました。私達が育てた「こすず」がこのような製品になることに感動しながら生産者、畑のオーナー、協働者の仲間と美味しくいただきました。

他にもこれは枝豆をつぶしているところなのですが、枝豆をつぶしたずんだ餅を作ってみました。コクもありなかなかの出来栄で、美味しくいただいた様子でございます。

最後のイベントは味噌づくりです。4軒分、初めての方も加わり無事仕込みが終わりました。近所の方も久しぶりに味噌かきを見えるということで見学にきました。出来上がりが楽しみです。これらの催しは、私達の活動を一人でも多くの方に知っていただいで、大豆を通じ農業に関心を持っていただければとの願いでございます。幸い、反響も大きく、来年は私も作ってみようという声をいくついただきました。

反省と今後に向けての抱負について述べさせていただきます。たかが大豆、されど大豆といわれますように、収穫してみますと、畑や大豆の種類によって、出来栄はまちまちです。思うような成果は得られませんでした。そして課題も残りました。

**大変です鹿に食べられました**

- 10月以降鹿畑に鹿が侵入。
- 一夜にして全滅です。
- 鹿除けフェンスはあったが、寝落ちでガックリ、畑の中が真っ白です。

**いよいよ収穫**

- 刈り取った大豆は昔ながらの手で叩きました。
- 結局と方がわかり大変です。
- 大豆生産者のプロから脱粒機のある早生種JAでレンタル。作業が1日に終わりました。

**豆腐は美味しかったですか**

- 12月、市民会館主催の豆腐作り教室の様子。
- 大豆産大豆で作った豆腐はいつがでしたか？

**こすずによる納豆の試作**

- 富士納豆製造所のご協力によりこすず納豆の試作が完成。
- 昔年は不揃い、今年は「それでも美味い納豆」に仕上が。最後のつゆは手選別。
- 大豆生産者・畑のオーナー・協働者へお配りしました。

**ずんだ餅を作ってみました**

- 地元産大豆と地元産もち米のコラボレーション。
- 初めてにしては、まあまあ出来栄、こくが効いて旨みもあり、「おっ！おっ！」の湧き。
- 漬けた汁が割れれどとこまでした。出来栄も。

**味噌づくり**

- 子供味噌づくり。
- 4軒分味噌にして2.25kg。出来上がりが楽しみです。
- 近所の方も味噌かきに駆けつけてくれました。

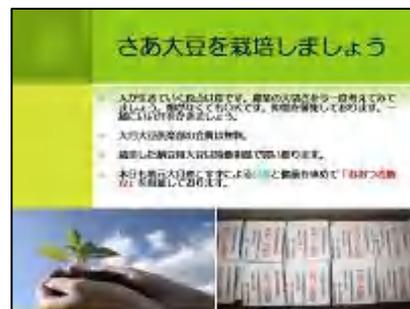
**収穫してみると**

- 例年並みの収穫でしたが、畑によって収穫量・品質が異なる。
- 大豆の種類(枝大豆・こすず・福大豆・黒豆)によっても差がある。
- 収穫量？ 品質？ 価格？



ねておりますが、まだ産声をあげたばかりの組織です。関係機関と協力、研究を深め、地域おこしにつなげ、楽しく大豆作りが出来ればと願っております。

結びになりましたが、皆様、一緒に大豆を栽培しましょう。やはり人が生きていく原点は食です。大月大豆倶楽部の会費は無料です。栽培した大豆は時価相場で買い取ります。皆様のご入会をお待ちしております。また、本日はロビーで私達が栽培した大月産こすずによる大月納豆を600個用意いたしました。おかげさまで完売となりました。ありがとうございました。是非ご賞味していただいて、味の方をまた私どもに教えていただければ、富士納豆さんと協力してさらにグレードの高い物に仕上げていきたいと考えております。以上でございます。ご清聴ありがとうございました。



### 【 佐藤コーディネーター 】

渡邊さんどうもありがとうございました。大月納豆完売してしまったのです。私も買おうと思っていたのですが、また是非次回に購入させていただこうと思います。この1年間、大豆づくりを初めてされたということでのいろいろな苦労や学びがそこにあったという背景を知りました。また新しい仲間もできたという実感がすごく伝わる発表だったと思います。ここで1つ2つ質問を私の方からさせていただこうと思います。本来であれば会場から質問をいただきたいと思っているのですが、時間の進行の関係でパネリストの方へのご質問、ご意見等は2部の方でまとめてさせていただきますので、もし何か後でご意見、ご質問があるようでしたらこちらのパンフレットの後にメモがありますので、忘れないうちに書いていただければと思います。では1つ2つ質問させてください。渡邊さんの場合は、実際にサラリーマンをやられて、この大豆づくりに挑戦されているということのようですが、サラリーマン時代も仕事上で問題にぶつかったときに、ある意味学びの姿勢とか人との繋がりが大事だったと思います。そのサラリーマン時代と今の大豆づくりの活動との学びの違い、ないし人の繋がりの違い、逆に共通するようなことあったかと思いますが、その辺りをもう少しお話をしていただければと思うのですが、いかがでしょうか。

### 【 パネリスト 渡邊勲 氏 】

学びの姿勢や方法につきましては、サラリーマン時代というのは会社のシステムといいましょうか、例えば新入社員とか若手の頃、中堅、さらにポジションに合わせた中で、いうなれば会社から押し付けられているという少し変ですが、指導型の学びでした。私が農業を始めて気が付いたことは、自分から積極的に情報発信したり、学ばないと前に進んでいけなかなと思います。そういった意味では自分自身は能動的に動くように心掛けています。また人の輪の繋がりですけれども、人と人の繋がり、関わりがあってそこに生産や販売があるのかなと思います。今回の活動を通じ、人が人を紹介していただいて、人の輪が広がって、いろいろなことを私的には学ぶチャンスをいただきました。これからも大切にしていきたいと思っています。

### 【 佐藤コーディネーター 】

ありがとうございます。もう1つ質問させてください。最後に大豆づくり、仲間づくりへの呼び掛けがありましたが、短大の学生なんかも参加することもできるのでしょうか。

【 パネリスト 渡邊勲 氏 】

はい。私達大月大豆倶楽部は、畑を持っている人、持っていない人ではなく、大豆に関心、興味がある方を大歓迎しております。例えば草むしりだけでも参加したいという方も本当にありがたく大歓迎です。大月短期大学の学生の皆さんも是非お待ちしております。また、会場にいらっしゃる方も門戸を広くしてお待ちしておりますので、老いも若きも一緒に大豆づくりに参加してみたいかでしょうか。宜しくお願いします。

【 佐藤コーディネーター 】

ありがとうございます。是非皆さんも参加を検討してみてください。ではお2人目の発表に移らせていただこうと思います。今度は農業ではあるのですが、農業と関連の深い「食」について考えてみたいと思います。学校給食食材提供グループの杉本成司さんの紹介をさせていただきます。農業生産者である杉本さんは、学校給食に食材を納入しています。そこから子供達の食育についての問題意識が生まれて、杉本さんの様々な活動とそこから発見、学びがあったようです。それについての発表をしていただこうと思います。学校給食から感じた食育というテーマでご発表をしていただきます。では宜しくお願いします。

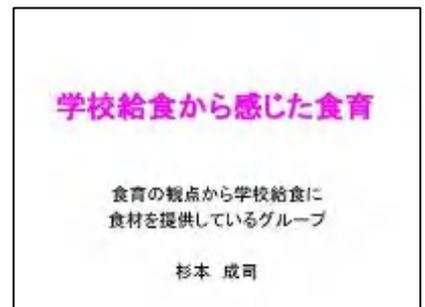
【 パネリスト 杉本成司 氏 】

私に課せられた課題は、食育の観点から学校給食に食材を提供しているグループということで、学校給食から感じた食育としていくつか発表させていただきます。宜しくお願いします。着席して失礼します。

皆さんまだ記憶に新しいと思いますけれども、3年ほど前、中国からの毒入り餃子事件そしてまたそれから半年くらい経った後、政府が貯蔵している事故米事件、そんな事件が頻繁に発生したときに、いわゆる食に対する関心が非常に高くなりました。そこで食料の安全とそれに伴う食料自給率の向上ということがクローズアップされてきたとご記憶だと思います。

そこで、私どもは食料の自給率の向上については、どうしたらいいかと考えた結果やはりこれには耕作放棄地の解消、またそのためには地産地消ということで、何とか私達も大月で採れた農産物を学校給食センターに使ってもらえないかということで、関係機関に働きかけをしたのですけれども、その当時一緒に大月食品納入組合の方も教育委員会に対しまして地産地消という観点から働きかけをしておりました。そこで私どもとこの組合との目的が1つになったということで、合併をいたしまして、私達は大月食品納入組合の生産者部会という位置づけで組織をし、立ち上げたという経緯がございます。

最初のうちはどうしていいか全く分からなくて、厳しい規格があることを伺ってはおりましたけれども、いずれにしても試行錯誤で最初に出したのは、白菜120キロ



とネギを確か30キロだったと思います。そして家に帰りましたら給食センターからすぐに電話がありまして、「あなたが出した白菜はちょっと黒い線が入っている。一般家庭で使うには全く問題ないけれども、学校給食としては使えない。子供達はこれでは食べない。廃棄処分です。ネギは白い部分しか使わない。」とのことでした。私は頭にきました。本当に。それで、そのころ頻繁に会議を行っていましたので、いろいろセンター長から話を伺いました。センター長曰く、「生産者の皆さんこれだけは注意してもらいたい。葉物野菜を出す場合には、私どもも水で何回か洗いますけれども、もし中に小さい虫やそれに似たものがあったら大変なことになる。いわゆる拒絶反応を起こして子供達は食べなくなってしまうのでよく注意してください。」その他にもセンター長に聞きましたが、食べ残しは日常茶飯事、また高価な牛乳はあまり飲まない。そのようなことを聞き、これが本当ならばあまりにも今の子供達は、暖衣飽食に育っていると思いました。私は戦後の食糧難に育った人間ですから余計このことは大きなショックになったわけです。

私は、常日頃「食」と言うものは、私も良く分かりませんけれども、いずれにしても人間の生活の基盤であるということを理解しております。そしてその上に立って食を通じて健全な心身を培い、豊かな人間性をつくったり、自然の恵みや勤労の大切さ、こういうものを子供達皆が理解すると言うことが、私なりの食育と理解しているわけでございます。ですから先程のショックが本当に私を変えたといえますか、食育の重要性についてその時に初めて気が付いたわけです。

でも待てよ。これは大月だけかなと思ひまして、近隣にございます学校給食について聞いてみました。ところがどこもみんな同じような状況でした。これならば我々生産者が食育という大きな問題についてとてもじゃないが重荷になる。これはこの実態をたくさんの人にまず公表して、いわゆる国民的視野でもって食育を推進すべきと考え、一昨年春に山梨日々新聞に「学校給食に思う安全な食材提供」と題し公表いたしました。たくさん大きな反響がございまして、私と同じような方が、賛同者が多くいることにその時気が付きました。

でも待てよ。これはどちらかというとな生産者の要望である。これと平行してやはり私達も消費者である子供達、あるいは給食センターのニーズにあったような食材を提供しなければならない。こういったことから、まず研究会を



今の子供たちは・・・  
白菜のちよっとした黒い筋⇒食べない  
ネギの葉の部分 ⇒使えない  
野菜に付着した小さな虫  
や似たようなもの ⇒拒絶反応  
食べ残しは日常茶飯事  
  
戦後に育った私は、非常にショック！

『食』と言うものは生活の基礎であり、食を通じて健全な心身を培い、豊かな人間性をつくり自然の恵みや勤労の大切さを理解する。  
↓↓  
**私なりの『食育』**  
給食センターへ出荷したことで、  
食育の重要性に気付く

**学校給食の実態を公表し  
国民的視野で食育を推進**  
大月市以外の状況はどうなのか調べてみた。  
↓↓  
近隣の学校給食についても  
同様であることが分かった。  
↓↓  
この実態をたくさんの人に  
知ってもらいたい！



**生産者の技術レベルアップ**  
毎月の打合せ会議 ⇒  
富士東部農務事務所の保育 ⇒ 勉強会  
事例研究 ⇒  
新しい知識の習得 ⇒ まだまだ学べることが  
たくさんある。  
  
レベルアップを目指した結果・・・  
↓↓

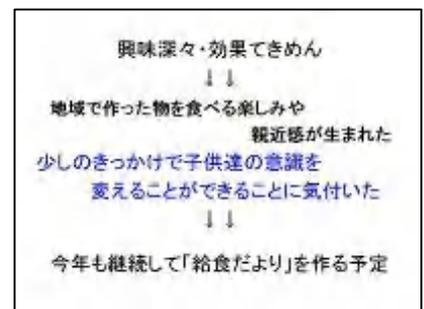
行いました。発足以来2年ちょっとですが、毎月の打ち合わせ会議の後、必ず勉強会をしてレベルアップを図ってきました。おかげさまで昨年春には私も山梨県知事からエコファーマーということで認定されまして、安全な食材を給食センターに提供しております。

さて、実際に子供達に食育というものをどういう方法で教え、伝えていかなければならないか、ということについていろいろ検討、苦慮しましたが、これから4つ程梁川小学校を舞台に私が実施し感じたことを発表させていただきたいと思っております。

まず第1番目に、1番大事なことは生産者と消費者、いわゆる生徒との意思疎通を図り、お互いの信頼関係がまず必要ではないかと言うことで、これは給食センターの取り計らいによりまして、給食だよりという壁新聞のようなものですが、ここに4人の生産者の顔写真を写しまして、中に誰が、何処で、どんなものを、どのような方法で作っているのかというコメントを入れてそれぞれの学校に掲示をし、配布しました。私は丁度その頃、梁川小学校へ行っておりましたので、子供達に廊下で聞いてみました。すると子供達曰く「おじさんたちが、今私達が食べている給食の野菜を作っているんだね」と驚いたような、うれしいような、安心したような、いわゆる地域で作ったものを食べるという楽しみが子供達に生まれたように見え、これは大成功でした。今年も継続して発行するとのことすでに学校へ配布してございます。

次に2つ目でございますけれども、梁川小学校にはすぐ近くに5ヶ程の学校農園がございます。子供達は、その学校農園でいろいろな野菜を作っているのですが、たまたま昨年6月に、サツマの苗を600本買ったので来て教えてほしいということでした。私は喜んで飛んで行って、これが教えているところです。サツマの苗のどこにサツマが付くかということをもまず子供達に教えて、そして一緒にサツマを挿しました。

その後子供達は、去年は特に暑かったですけれども、サツマの蔓返しをしたり、あるいは草むしりをして一生懸命努力をして、いよいよ収穫になりました。このように大勢集まっていますけれども、生徒だけでなく地域の人や保護者も一緒になって楽しいイモ堀をしました。地域づくりの一環にもなったのではないかと考えております。そしてその日のうちに試食会を校庭で行いまして、その時に教頭先生が各生徒にマイクを持って行って今どのように思っているかいろいろと質問をいたしました。すると大概の子供



が自分達が作った物を食べるという喜び、収穫の喜びということをおそれぞれ発表してくれましたので、私はこれは良かったなということを感じました。食べているところを見ますと、多少の汚れが付いていても、あるいは小さな物でも皮ごと全部食べてくれました。私は、この時に学校農園から得た食育というものは非常にいいのではないかと感じました。そしてこの間、給食センターに行って残飯について伺ったのですが、外周の子供達はよく食べる。いわゆる残飯が少ない。これに反して中央の子供達はあまり食わず残飯が多い。これはやはり学校農園での食育が影響しているのではと感じました。やはり学校農園は必要ではないかと改めて強く感じました。

そして3番目に、梁川小学校では地域に学び、地域を知り、地域の人と交わり、地域を愛する心を養う、ちょっと表現が違うかもしれませんが、そのような重点目標を掲げて、いろいろと子供達が地域の歴史や文化を勉強しています。たまたま私のところに今休耕田になっている7ヘクタールの田んぼがあり、これについて説明してもらいたいという依頼を受けまして、今説明をしているところです。

これいい食育のチャンスと思ひまして、実はこの今見ている田んぼ、今からおよそ80年位前、この地域の人達が米を食べたい一心のために、重機もない時モッコで土を運び、そしてツルハシとシャベルで作った田んぼあるいは水路そして貯水池の堤防だよということをお子供達に話しました。子供達は本当に食の大切さというか、その労働のありがたさを強く感じたようでした。そして、これは私の休耕地にあるりんごですけれども、皆と一緒にりんごを食べながらいろいろと話をしている様子でございます。

そして最後に4つ目です。昨年の秋でしたでしょうか。6年生の担任の先生から農業の話をしてくれと頼まれて、私も喜んで行きました。そして農業の話をお兼ねて食育も一緒に話をしました。その時に、先生の許可をいただきましてアンケートをとらせていただきました。といいますのは、梁川小学校は今年で閉校となります。子供達とはいろいろな点で関わりがあり、そして一緒に勉強してきましてので、今の子供達はどう思っているかという疑問がありましたので、今、住んでいる地域、大月市や梁川町は1番がすき、2番がきらい、3番がわからない。その理由を簡単に書いてください。という内容で出しましたところ、なんと驚きました。15人全員が1番の好きに丸をしてありました。そしてその内容は、自然がいっぱい有り、野菜がたくさん採れるから。この野菜がたくさん採れるという

学校農園で収穫した  
サツマイモの試食会



・子供達の笑顔は充実感を与えてくれます。  
・多少の汚れが付いていたり、  
不揃いの物でも喜んで食べてくれました。

③休耕田と貯水池を見学して  
米の大切さを知る  
さらなる食育のチャンス



貯水池                      休耕田



ご飯の大切さについて勉強中。  
みんな熱心に聞いてくれました。

休耕地でのりんご栽培



子供達に教えることにより自分自身も  
地域を勉強し直す良いきっかけになりました。

④アンケート結果から  
梁川小学校での授業の様子



アンケート内容

今、住んでいる地域(大月市、梁川町)は

1. すき	(	)
2. きらい	(	)
3. わからない	(	)

ところが食育の表れではないかと思いました。大変この結果を喜んだのですけれども、改めて食育の必要性を感じることができました。そして地域を知ると言うことは、地域を大月を好きになることであり、やがては山梨を日本を好きになる大人に成長していくのかと私は胸が熱くなった次第でございます。

この活動を通して私もたくさん勉強をいたしました。そして子供達を通じて発見や感動があり、一緒に成長したことが何よりの収穫だと思っております。そして最後に食育とは規則や決め事ではなく、学校教育の中で、あるいは地域の中で、あるいは家庭生活の1コマ1コマの中で、自然に取り入れていくことが最も大事であることを私は学ぶことができました。

たった2年間の経験でございましたけれども、私なりに感じ実行してきたことを発表させてもらいました。皆様のご指導等を頂ければ幸いです。

どうもご清聴ありがとうございました。

#### 【 佐藤コーディネーター 】

杉本様ありがとうございます。力強い発表だったと思います。1つ質問をさせてください。私も短大で、20歳前の世代が何世代も違う若い学生と接していて、世代間のギャップみたいなものを日々感じているわけですが、杉本さんの場合も今の子供達の食事とか食生活の変容ぶりから、たぶん活動がスタートしたということだったと思います。そこには、いい意味、悪い意味、良い面、悪い面それぞれあると思うのですが、良い意味、良い面で子供達から逆に学んだということがもしありましたら、発表の中でも少しありましたけれども、もう一度ご紹介していただければありがたいかなと思います。

#### 【 パネリスト 杉本成司 氏 】

梁川小学校へ行きまして感じたのですけれども、私達の時代は非常に厳しいというか悪い時代でした。ところが今の生徒を見ますと、先生と生徒との隔たりがあまりない。ですから、子供達は自由に自分の意見を発表できるというムードが私は非常に良かったと思います。そしてまた、感じたのですけれども、よく親の背を見て子は育つ、私は全くそのとおりだと思ひまして、というのはやはり子供達は、大人達の言動を見て育つ、いわゆる子どもは社会の鑑であるということに気が付きました。と同時に私ももっともっと学習しなければならないということ強く感じました。

#### 【 佐藤コーディネーター 】

ありがとうございます。もう1つだけすみません。発表を聞いていてあるいは今の質問のご回答を聞き、杉本さんはすごいエネルギーでモチベーションがすごく高いと感じたのですが、そういった杉本さんのエネルギーというものは、どこからくるのでしょうか？あるいは、ポリシーや信条のようなものあるのでしょうか？

15人全員が1番の「すき」と回答！  
「すき」と答えた主な理由は…  
『自然がいっぱい有り、  
野菜がたくさん採れるから』  
この結果から…  
↓↓

改めて地産地消を含め食育の必要性を  
子供達に気付かせてもらいました。



この子供たちが地域を知るとは、地域を大月を好きになることであり、やがては山梨を、日本を好きになる大人に成長していくのだと胸が熱くなりました。

活動を通して  
私もたくさん勉強をして、発見や感動があり、  
子供達と共に成長しました。  
最後に食育とは…  
規則や決め事ではなく、学校教育の中で、  
あるいは地域の中で、あるいは家庭生活の  
1コマ1コマの中で、自然に取り入れていく  
ことが最も大事であることを学ぶことが  
できました。



ますが、その方にご発表をお願いしたいと思います。根岸さんの発表では、今私がお案内させていただいた開放の窓をどのように大きくしていくかということに念頭を置いて、聞いていただければと思います。それでは宜しくお願いいたします。

【 パネリスト 根岸光子 氏 】

宜しくお願いいたします。私はときどきとちって前の2人よりは下手だと思いますが、私なりの発表で聞いてください。座らせて失礼いたします。

私が観光ボランティアを応募したきっかけは、猿橋駅で3年程前から登山客に湯茶の接待をしたことが始まりです。猿橋駅でやりました。時期は4月から7月迄。時間は午前7時45分より10時迄でした。毎週土日と祭日でした。電車より降りてくる人に大きな声で「おはようございます」「甘い梅干は如何ですか」「ぬかみそは如何ですか」と声を掛けていました。これが梅干を配っているところです。甘い梅干に引かれて皆さんが寄って来ます。「口直しに麦茶も一杯どうぞ。朝茶はその日の難逃れですよ。気をつけて行って来てくださーい」と声を掛けると、中には「帰りまで居てもらいたいなー」なんて言う人も沢山居て、とてもうれしかったです。「残念ですが、10時迄なんですよ、この時間は」なんて言いながら声を掛け続けていました。

そんな矢先、大月市の観光課で観光ボランティアを募集しているという話があり、若い職員が私の家に何回か足を運んでくださりました。年齢も年齢なのでものすごく迷いました。でも市の職員のパワーに負けてしまいました。じゃあ、猿橋駅での声掛けの経験を活かしてやってみようと思いました。

いよいよ応募してみると大変な事でした。研修もありましたが、資料にない事も説明しなくてはと思い勉強しました。自分で勉強した水の流れの事を、「富士山の伏流水で忍野八海から流れて来ているんですよ。大月の笹子川、真木川、葛野川が流れ込み桂川とこの川は言います。下流に行くと相模川となり、相模湖に入って神奈川の人達の水源となっています」と話しています。皆さん感心して聞いてくれます。これがその説明をしている写真です。

こうした勉強の成果が出てきてからは、説明の言葉を増やすようにしなくてはと思い、町の人達からも知っている事は何でも聞き、また聞き逃さないように大きな聞く耳を持つようになり、普段から色々な事を見たり聞いたりしながら自分なりに日々勉強しています。その成果で最近では資料がなくても説明ができるようになりました。これが説明をしている様子です。

時には木の太さと自分を比べて「この木も私も昔は細かったんですよ。今はこんなに太くなっちゃいました」とか「夜にな



観光ボランティアに応募して

観光ボランティア  
根岸 光子

甘い梅干はいかがですか？



駅前での経験を活かしてみよう。



川について説明中。  
思わず覗きこんでいます。



資料なしでも勉強の成果で  
説明できるようになりました。



ると時々ムササビが出てきます。ムササビを見たい人は夜に来て下さい」なんてジョークをいいながら笑いをとっています。

また、1人でも多くの友達が出来ればと思い、来ていただいた皆さんにお便りを出そうと自分で考えて始めてみました。

「差し支えなかったら住所をお願い出来ますか？」と声を掛けると、快く書いてくださる方、また嫌がる人もいます。沢山の人が書いてくださいました。これが皆様からいただいたお手紙の一部の写真です。

7月から11月末までに案内した人数は1979名です。お便りは58通出しました。お返事を下さる方、贈り物下さる方、本当に心温まる思いで一杯です。エピソードといえば、ご夫婦で猿橋をスケッチしていた二人にその後、私が勝沼へ研修に行った時にトンネルをスケッチしているお二人に出会いました。私のことを覚えていて下さって再会を喜び合いました。お便りの返事も下さり、また年賀状までいただきました。ここでそのご夫婦からいただいた手紙を読ませていただきます。

「すっかり秋らしくなりました。お便りありがとうございます。先日は良い風景の中スケッチができ満足しています。秋の観光シーズンで毎日お忙しくご活躍でしょうね。来週は猪苗代湖に紅葉の風景を描きに行きます。またお尋ねしたいと思います。お元気で励みくださいませ。」

こんなお便りをいただきました。本当に素晴らしいことだと思いました。

実は観光ボランティアの皆さんの中では、女性4名は大月の生まれではありません。私も南アルプス市からお嫁に来て早50年くらいになります。何かでしゃばりのようですが、長く大月で暮らしながら大月を好きになり、これからの大月のために頑張っているボランティア仲間と元気を分け合い、励まし合いながら、人に何かを伝え、たくさんの人に出会える喜びを感じながら、自分の勉強にもなるこの観光ボランティアを体の続く限り続けていきたいと思っています。

最後に私の説明している様子を皆さんにお見せしたいと思っています。下手ですが聞いて下さい。出来ればこれから猿橋の架け初めの猿の伝説と国定忠治の2つのお話を紙芝居にして皆さんにお伝えたいと考えております。では説明をさせていただきます。

いつもこのような格好で猿橋に立っています。皆さん見たら声を掛けてください。宜しくお願いします。

皆さん、ようこそ猿橋へいらっしゃいましたね。ありがとうございます。今から私の下手な説明ですけど、全部で5分くらいだと思いますので我慢して聞いてください。この写真は中央線が走っているところです。車窓から一瞬猿橋を見ることが昔

この木も昔は細かった・・・



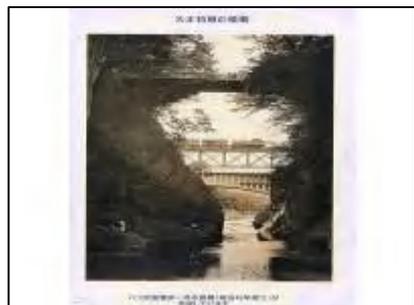
記念のしおりを渡しながら  
「住所も教えてくださいませんか？」



お返事をくれたお便りの  
ほんの一部です。



体の続く限り  
頑張っていきたいと思います。



はできました。私も若かりし頃そんな思い出がございます。リンパ腺は首のところを通っていますが、中央線はここを通っています。

これが昔国道でして、車が2台すれ違っておりました。幅ももっと広がったようです。すれ違えるくらいの広さがあったようです。この前に居るのはお祭りのイベントのようです。

水流の多かった昔は、舟を浮かべて下から橋の構造を見ることができました。観光客の中には舟があるといいね。なんて声がたくさんあります。

これが、新緑の猿橋です。

これが、紅葉の猿橋ですが、皆さん「わあ！」と声を出します。そしてそこに写っているのは何ですかと聞かれますから、それは水力発電の水が通っています。駒橋発電所で電気を起こし、この先上野原の八ッ沢の発電所まで行って、また電気を起こして再利用している水が通っているという説明をしています。

これが私が計画をしている猿橋の伝説の1つの猿の子渡しの絵と、上が国定忠治が橋から飛び込むところです。これは嬉さんに書いていただきました。これが成功すれば紙芝居を作ってやりたいと思っています。以上です。



#### 【 佐藤コーディネーター 】

根岸さんありがとうございます。本番の猿橋を目の前にした実際の案内をぜひ一回聞きたくなりました。紙芝居もまだ構想ですよ。これも織り交ぜてぜひ一回聞いてみたいと思いました。1つだけ質問させてください。今観光ボランティアという形で根岸さんは猿橋を案内されていますが、生涯学習とボランティアは結構繋がりが強くて、それについてご質問させていただこうと思うのですが、これは場合によっては仕事としてやるということもあったりすると思います。仕事でもしお金をもらってやった場合と、ボランティアで無償でやった場合の2つが有り得ると思うのですが、もし仕事でやった場合との違いを教えてくださいたいと思います。

#### 【 パネリスト 根岸光子 氏 】

仕事としてはお金をいただくということですから、行かなくてはいけないと思いますし、ボランティアだからといって責任がないということはないですけれども、お金をいただきたらかなりの責任がかかってくると思います。気持ちも楽になりますので、私はできればボランティアを続けた方がいいと思います。そして、日本に3つの指にしか入らない猿橋がこんな近くにあるということを皆さんにもっとよく知っていただいて、また日本中の人にこういうことを知らせたいと、私は自分で観光ボランティアをして特にそのことが心に強く感じるようになりました。

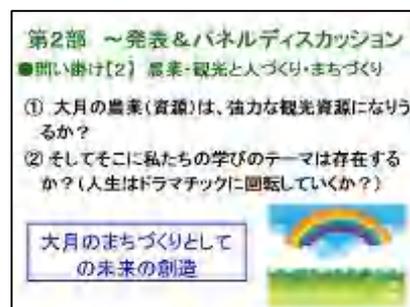
#### 【 佐藤コーディネーター 】

ありがとうございます。ボランティアという形には、自発性というものがたぶんそこにあ

るのではないかと思います。自由な発想や自分のやりたいようにできる、そこにまた新しい学びがあるのではないかと、そのような発表だったと思います。ありがとうございます。たいへん興味深い発表でした。

それでは、ここで1部を閉じさせていただきます。1部では3人の方の活動報告、生涯学習に係わる学びを紹介させていただきました。それによって皆さんの農業ないしは観光に係わる学びがあるのかどうなのか、ということを確認しながら聞いていただければよかったですかなと思います。

ここからは2部に移らさせていただこうと思います。2部はプライベートな内容から少し大月全体、地域全体を考えていきたいと思っています。そこで冒頭ご紹介を申し上げた問い掛けについてまた確認をさせていただこうと思うのですが、2つの問い掛けがあります。1つは、今日のテーマである農業と観光ですね。大月の農業ないしは農業資源は観光資源になっていくだろうか。農業と観光を掛け合わせた形で考えていきたいと思



す。これが1つ目です。2つ目ですが、そこに私達の生涯学習としての学びのテーマは存在するか。農業が観光資源化することによる学びのテーマというものはあるのか。それによって皆さんの人生が、少し仰々しい言い方ですがドラマチックになっていくのかどうなのかということを考えていきたいと思っています。これが大月の町づくりとしての未来の創造に繋がっていくのかどうなのかということ、会場の皆さんとの共通認識で考えていきたいと思

そこで、4番目の発表の方の紹介をさせていただきます。おおつきエコビレッジの山田政文さんをご紹介させていただこうと思います。山田さんには先程の3人の方とは違った観点で2点お話をいただこうと思います。1点目は農業と観光両方に立脚したお話をさせていただくということ、2つ目はご自身の生涯学習の体験談ではなくて、エコの里の活動を紹介していただこうと思うのですが、農業と観光に関わるこんな素敵な生涯学習の場があるという情報提供の1つとして行ってもらおうと思います。この発表をいただいて大月の農業というのは観光資源になるのかどうなのかということ、考える2部のテーマとして考える契機としていきたいと思っています。それでは山田さん宜しくお願ひいたします。

【 パネリスト 山田政文 氏 】

皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきましたNPO法人おおつきエコビレッジの山田でございます。最後になりました。皆さん素晴らしい発表で緊張が高まって参りましたが、頑張りたいと思います。

私の方からは、鳥沢の中野、山谷地区でございます「大月エコの里」での活動の内容について、そして私どもと連携をとっております駒橋にあります「大月ロハス村」のイベントの内容などにつきましてご報告、ご案内をさせていただきます。それでは、ステージの映像をご覧ください。

これは私どもの大月エコの里の管理棟でございます。ログハウスでできています。かなり太い柱を使っていますが、これはカナダから輸入した材料です。芝桜が咲いておりまして、非常に綺麗な雰囲気ですが、これからこういった花は新緑に囲まれ



た素晴らしい景色が見られる状況になります。

はじめにNPO法人とは一体何だろうという風に思われる方がいらっしゃると思いますが、NPOは非営利法人でございます。簡単にいいますとボランティア的な団体でございます。私どもは特定非営利活動法人法に基づく認証を受けて成立しております。非営利と申しまして組織の維持あるいは目的を達成するためには、経費が当然かかります。主な収入としては、会費そして農産物の販売収益などがございます。

NPOは現在、全国で42,000法人ございます。山梨県では330法人、この大月ではおそらく10法人くらいかなと思います。

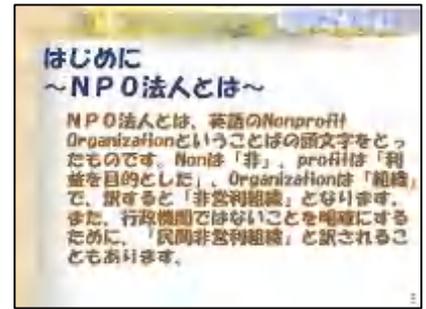
続きまして、場所ですが鳥沢駅から徒歩で40分、車では5～6分の場所でございます。大月カントリークラブというゴルフ場がありますが、その東側に位置しております。

NPOの設立の経緯ですけれども、今から7年前にここに10ヘクタールの農地と山林がありました。これを民間の開発業者が市の方に寄付をしたいという申し入れがありました。市としてもこれをただもらっても管理経費がかかるということで、地域で管理してほしいという話が出ました。そこで私どもは管理する団体としてNPO法人を立ち上げたということがございます。今から7年前にそういった準備を始めまして、6年前の平成17年3月にNPO法人の認証を受けて現在に至っております。おかげさまで丸6年経過して参りました。現在の体制ですけれども、正会員と準会員があります。併せまして84名で組織しています。管理体制といたしましては、里山管理部とか農園管理部とか6つの管理部を編成して活動しております。具体的な活動についてご説明をさせていただきます。

30年間に渡って荒果てておりました農地、山林を耕している風景でございます。切り株などがありまして非常に大変な思いをしながら作業をしておりました。

これは整備した雑木林です。かなり綺麗になっていますけれども、ここで今堆肥にする落ち葉を集めているところです。エコの農産物は、基本的に有機無農薬で栽培をしております。堆肥作りは重要な作業でございます。右上の写真は、今は懐かしい麦踏の風景です。右下は、作業の後自分達で作りました小麦粉でおつけだんごを食べているところです。やはり小麦粉は自家製に限りるといいますか、おつけだんごも地粉を使って食べればさらに美味しいということで是非一度お試しいただきたいなと思います。

エコの里では、桜の名所を作ろうということで「千本桜プロジェクト」というのを行っています。今年で8回目の植樹祭を実施いたしますが、今月の20日、日曜日に初めての桜祭りと



申しますか散策会を行います。来ていただいた方には甘酒などを振舞えたらいいかなと思っております。早春の一日にエコの里で河津桜が最初に咲き始めますが、これをご覧いただけるのかなと思っております。左上の写真ですけれども、どなたか解りますでしょうか。当時6年前ロッテ大活躍の立役者である小林雅英投手のお母様に来ていただきまして植樹をしていただきました。これも今度の桜祭りにはしっかり花を付けているのかなと思います。



次にシイタケの植菌体験ということでございます。これは毎年行っております。先週も行いました。エコの里のシイタケはいわゆる原木で作りますので非常に栄養価も高くおいしい、しかも安全であるということでございます。



次にこれは、東屋がございまして。富士見亭と名付けておりますが、そこに今つつじの植樹をしております。これは日野自動車さんや、大月市からいただいたものを植栽しています。



次に農業体験教室ということでいろいろやっておりますけれど、これは大月短期大学の学生が毎年30名を超える方達がここで実習をしております。

これは、そば打ちをしているところです。外国人の方が右下の方に写っていますが、一番最初の頃のそば打ちの様子です。左上の方は、そばの種を蒔いているところです。右の方はそれが花を咲かせているところです。上のほうに見えるのは扇山です。



これは、猿橋中学校の2年生が今から2年前ですけれども、農業体験実習ということでここを訪れていただきました。1年の間に3回程来まして、植え付け、蔓返しという作業をして、そしてサツマの収穫ということで、先程杉本さんの方から食育という話がありましたが、これを使って調理をしたと聞いております。



これは、鳥沢小学校の「たんぼぼクラブ」という学童保育の方々がさつまいも堀体験を昨年の10月頃行いました。右下に見えるのが黒米を作っています。たなが綺麗な景色になりますけれども、ここで作っています。

その他の活動といたしましては、6年前に梁川の藤屋敷の藤が全部切られてしまうということで、これは地域の非常に観光としても有効な資源であるということで、急遽私どもがこれを貰い受けました。今現在は、エコハウスの前に移植してあります。綺麗な藤の花が咲いています。



これは、エコの里は国土交通省から「関東の富士見百景」ということで認定を受けております。当然富士山も綺麗に見えるのですが、大月の町からも見えるのですが、失礼ですがやはり山並みの向こうに見える富士山というのはとても素晴らしい

です。また、ただ富士山が綺麗に見えるだけでこの富士見百景には選定されません。やはりそこで人々が生き活きと活動している、こういったことも高く評価されて認定を受けました。

これは、NHKおはよう日本で放送された時の写真が写っています。真ん中に有名な入田直子さんが写っています。

次にこれは、シイタケの原木をとった後、太い部分が残ります。これを薪割り機で割っているところです。非常に薪割り機の性能が良くて7トンの力があります。割るというよりは、裂くという感じでドンドンと薪が作れます。エコの里ということで、地球環境にやさしいということを目指しておりますので、薪は燃してCO<sub>2</sub>がでますけれども、元々空気中にあるCO<sub>2</sub>を吸収しておりますので、いわゆるCO<sub>2</sub>がゼロという風に感じます。したがって、薪を燃やしていくことはCO<sub>2</sub>を発生させるのではなくて、CO<sub>2</sub>の削減に繋がるということでございます。

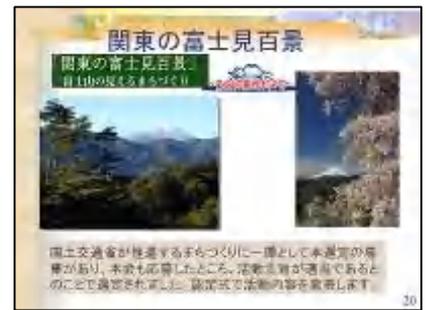
これは先日、2日か3日前ですか、山梨日日新聞に掲載された、民間の会社と委託契約をいたしまして、CO<sub>2</sub>を使った野菜の栽培の実験をした結果が出ています。大根が写っていますが、右側がCO<sub>2</sub>を噴霧した大根です。同時に種を撒きまして左側が普通に栽培したものです。大きさで1.3倍くらい違います。なおかつ右側の方が甘みがあっておいしいという結果が出ています。今年もさらに違う物で実験を続けて行きたいと考えております。

エコの里は、市の依頼を受けまして、昨年9月に中国野菜の栽培実験を取り組みました。昨年は4種類作付けをしまして、写真にあるカブみたいなものなどを作りました。今年もさらに種類を増やしてやっていきたいと考えています。できれば大月の特産品にしたいという意気込みを持っています。

これは「エコだより」という私どもの広報誌です。年3回ほど発行しております。やはり私どもがやっていることを市民の方、町民の方に知っていただきたいという思いがありまして、これはかなり大変な作業ですけれども、発行させていただいております。先程ロビーの方でも置いてありましたが、まだ数がありますのでお持ち帰りいただきたいと思っております。

これは農産物販売の場として、市の産業祭りあるいは富浜公民館祭りとなっておりますが、こういった場所で農産物を積極的に販売しております。また日頃は猿橋の袂にあります農協さんの販売所でも販売しております。もう少しすれば原木のシイタケもできるかなと思っております。

これは、猿橋幼稚園の皆さんがどんぐり拾いに毎年来てくれております。非常にかわいいお子さん達が来まして、普段ちょっと怖い顔をしたおじさん達も頬が緩むといった状況でござ



います。

エコの里では、貸農園事業も行っております。今20区画ほどを借りていただいております。この半分の10区画が東京、神奈川の方々が来て耕しています。ここへ来ると非常に心が安らぐとか富士を見て農園を耕せることは素晴らしいとか、またあるご夫婦は、この後大概、君恋温泉に行ってお風呂に入るといことで、非常に大月に温泉がないのがもったいないという風に考えております。これでエコの活動については、報告を終わらせていただきます。

これは、駒橋にある大月ロハス村の、右側にあるのが案内図と左側が4月9日、10日に行われます「第1回大月癒しのフェスタ」のパンフレットでございます。ロハスというのは、健康と環境を重視した生き方と言われております。市の方針として大月を癒しの里にする、ということがありますのでそういった考えを受けて、駒橋の岡部工業所さんが中心となって山林を手入れして作ったものでございます。中には素晴らしいステージもございます。100㎡ほどあるのですが、あとインデアンハウスなどがございます。今度のイベントの内容ですけれども、いわゆるヨガの体験とか有機野菜の販売とかコンサートなども行われます。是非ご参加いただきたいと思っております。

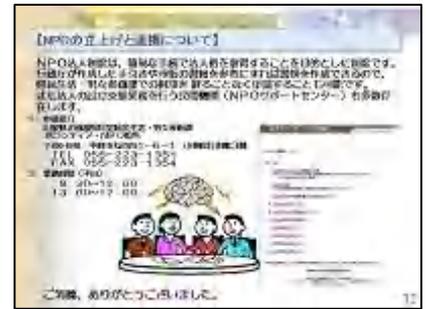
これは、山梨市で4月下旬に行われた「畑結」という集まりがございました。「畑結」という名前がすごく気に入りました。お誘いがあったので、寒かったのですが参加してきました。非常に古く立派な家で、ここに20代から30代の人が多かったのですが、私よりちょっと上の人もいましたが、60名ほど集まりました。ここでいろいろな業種の方が意見交換をしている様子です。私が提案したいことは、大月にもこういった古民家、放っておけば崩れてしまうような、しかしながらもったいないというような家があると思っております。そういったところを活動の拠点としていく。そしてまた情報交換も出来るということで、非常に素晴らしい会だなと思っております。20代の若者も情熱を傾けて農業に取り組んでいるということが非常に私は感動しました。こうした活動が是非大月でも芽生えれば良いなと思っております。

これは先ほど三番叟などを上演していただきました追分人形です。唯一の無形文化財ということですが、先月2月6日にこの場所で第五代目西川伊久造襲名披露公演が行われましたけれども、それまでのご苦労あるいはこれからまだまだご苦労が続くと思っております。是非ご出席の皆さんそういったことを認識していただきまして一緒に支援をしていければと思っております。また、これが1つの観光として活用させていただければありがたいと思っております。

最後になりますが、NPOの立ち上げと連携についてお話をさせていただきます。NPOの立ち上げには資本金は要りません。そして定款も作りますがほとんど県のご指導で簡単にできます。しかしながら、運営は非常に厳しいものがあります。そうした中で現在私どもは、



商工会の会員にもさせていただきましたし、ついこの間大月法人会にも加入させていただきました。ようやくよちよち歩きですけれども新米になりつつあるのかなと思っております。是非こういった主旨に賛同いただけます方がいらっしゃいましたら、私どもの会員あるいは準会員で結構ですので入会していただければと思います。



また、梁川から笹子まで大月にはいろんな特長を持った地域があります。そういったところで是非NPOや農業生産法人などを立ち上げていただきまして、横の連携を深めながら、大月の農業そして観光の発展と一緒に取り組んで行きましょう。宜しくお願いします。ご清聴ありがとうございました。

#### 【 佐藤コーディネーター 】

山田さんありがとうございます。1つだけ質問させてください。皆さんこのようないろいろな活動をされていることをご存知でしたでしょうか。いろいろな活動がありましたということですが、例えばエコの里さんの活動の中で、こんな人がいて、あるいはこんな風に学んで、こんな風にイキイキして、こんな風が変わっていったというようなリアル事例がありましたら具体的にお話していただければと思います。

#### 【 パネリスト 山田政文 氏 】

私どもは定年退職した方が圧倒的に多いのですが、そういった方が普段こういった活動がなければ、居場所がどこにあるのかなという形が多いと思うのですが、エコの里にきて活動することによって元気になっていくということが一番感じることです。おそらく誰かということではなくてみんなが元気をいただいていると思っております。イベントなどを行って小麦粉でおつけだんごを作って、来た方が「おいしいね」と言ってくれとそれだけで満足するようなこともあります。

#### 【 佐藤コーディネーター 】

ありがとうございます。以上をもちまして4人の方の報告をしていただきました。ここからはパネルディスカッション形式でこのステージでの議論ないしは次の会場と意見交換に繋げさせていただきます。と思います。

それぞれ4人の方にご質問させていただこうと思うのですが、2部の共通テーマ「大月の農業資源は強力な観光資源になるだろうか。そしてそこに私達の学びのテーマは存在するか」というこのテーマを念頭にご質問をさせていただいてそれぞれの皆さんの見解を、皆さんの活動から離れても構いませんので、ご意見をいただければと思います。話の流れの中で山田さんに早速ご意見をいただければと思うのですが、「大月の農業資源は強力な観光資源になるだろうか」まさにエコの里さんがそういう活動をされているわけですが、その見解でしょうか。あるいは観光農業という言葉もあったりするのでその辺りの情報なども少しお伝えいただければと思います。



【 パネリスト 山田政文 氏 】

観光資源としては、桜の名所づくりをしていますので、河津桜から始まって山桜があり、長い期間桜が楽しめる町にしたいと思っています。これも1つの観光資源になると思います。またもう1つ貸し農園をやっておりますけれども、いわゆる観光というのは基本的には見るとか食べるといったことが今までの基本だったと思います。これからは体験するということが非常に観光の要素として重要になっていくのではと思います。

【 佐藤コーディネーター 】

物理的な大月の観光資源だけではなくて、体験をするという人との交流みたいなところから大月の農業は観光資源になっていくのではないかと、というような意見でしょうか。ありがとうございます。では次に根岸さんにご質問させていただきます。観光ボランティアとして活躍されているわけですが、観光客の目線に一番根岸さんが近いと思うのですが、観光客の目線で見たとき「大月の農業」というものは、観光資源に発展していくものでしょうか？

【 パネリスト 根岸光子 氏 】

少し難しい問題ですが、たくさんの人とのふれあいとお便りの交換の中で、言葉の使い方などをたくさん学ぶことができたことと、水がきれい、空気おいしい、そんな好条件の揃っている大月市での農業は素晴らしいと思います。山田さんの発表の中にあるようにたくさんのお花が咲き、富士山が眺められるところでの農業はやはり観光に繋がるものだと思います。猿橋入口の直売所も観光客になかなか評判がいいと思います。

【 佐藤コーディネーター 】

ありがとうございます。猿橋の直売所は結構賑わっていますね。では次に渡邊さんにご質問させていただきます。今後の展開として新しい組織を作って、納豆を地域の物産にしていこうという取り組みが成されているとのことですが、食を観光資源化していくことの1つの取り組みなのではないかなと思うのですが、その観点で今後の可能性をご意見ください。

【 パネリスト 渡邊勲 氏 】

大月にはおつけだんごとかウコン、笹子餅、それから厚焼きせんべいなどがありますけれども、ご覧のように限られた耕地の活用の中で私達が考えている地元産大豆の納豆は、資源として活用できると思います。といいますのは、私が先程も少し話の中でさせていただきましたが、市場調査をすると原料のほとんどは外国産です。そういう意味では大月には皆様ご存知のように、中高年を中心とした登山客が多く訪れます。そういった方々は、健康と名が付く食品には目がありません。幸い大月には交通のアクセスとして駅や初狩のパーキングエリアなど有望な拠点がいくつもあると思います。これらの拠点を活かして大月の農産物や商品が観光資源として十分活かせると思います。

【 佐藤コーディネーター 】

ありがとうございます。一駅逸品運動もそういう1つの流れにあたりするのでしょうか。最後に杉本さんにご意見をいただきたいと思っています。杉本さんには大きなテーマそのものをご質問させていただきますが、大月の農業は、強力な観光資源になるか。そしてそこに私たちの学びということがあるかどうかということについての、ご見解をお聞かせください。

### 【 パネリスト 杉本成司 氏 】

すばり言って大月の未来は農業と観光のドッキングだと思います。というのは、大月はまず京浜地区に近い。そして空気と水がきれい。いわゆる山地水明の地である。これを基盤に考えて私は2つほど方策があるのではないかと思います。まず1つは大月へ大勢の方に来ていただく。そのためには、学校農園や企業農園、観光農園あるいは個人農園といったものをどんどん発展させてまず大月に人を呼び寄せるといふこと。もう1つは大月に来た人におもてなしをする。梁川から笹子まで6つの駅でだいたい20数山のハイキングコースがあります。頂上へ登って、にぎりを食べて、富士山を眺めて帰ったのではもったいない。そこでせっかく来た人におもてなしをする。いわゆる大月で採れた農産物を直売して、お土産に持たせる。私は20数年間、倉岳にきた人達にりんごとキウイフルーツ、ゆずなどいろいろなものを家の前で無人販売で売っていますが、非常にみなさん喜んでお土産に買っていきます。こういったおもてなしを各地域で行えば大月全体が観光地としてムードが上がるのではないかと思います。



### 【 佐藤コーディネーター 】

ありがとうございます。最後におもてなしということについて共感をしました。来てもらって大月のいろんなことを知ってもらい、見てもらい、リピーターになってもらうということに対して、おもてなしは非常に必要だと思います。そのために我々自身が大月のことをもっと知る、学ぶということの有効性、有意義性があるのではないかなと思いました。

## ■ 会場との対話・意見・情報提供等

### 【 佐藤コーディネーター 】

一通りパネリストの方にご意見をいただきました。ここからは皆さん会場との対話、交流という風に進めさせていただこうと思います。時間の許す限り会場の方からもご意見や情報などをいただきたいと思うのですが、時間が限られているので、この2つのことに則して会場からご意見をいただこうと思います。

1つ目は今日発表をいただいた4人のパネリストの方へのご質問ないしご意見に対してお答えをパネリストの方にしていただこうと思います。2つ目は農業や観光に係わる学びの機会に関する情報提供です。このようなイベントをしていますとかこのような学習会をしていますというようなものがもしあったら、会場からご案内をしていただければと思います。時間が限られていますので、出来るだけコンパクトにお話をいただければと思います。それでは挙手をもってお願いいたします。いかがでしょうか。

ではないようですので、私の方から若干情報提供させていただこうと思いますが、皆様のお手元のプログラムの中に大月おつけだんごの飲食店ガイドというチラシが入っていると思います。私の活動で恐縮なのですが、これに関して少しご案内をしようと思います。この飲食店ガイドは私のゼミで短大生に飲食店を調査させて8店舗のおつけだんごを出す飲食店の

●会場との対話・交流

【お願い】

① パネリストへのご質問・ご意見

② 農業や観光に関わる学びの機会に関する情報提供

※会場の多くの方から、お話をいただきたいので、コンパクトにまとめてください。

情報提供をさせていただいています。これはまさに地域と周辺の学習という観点でさせていただいて最終的にまとめたものです。これを11月の下旬くらいだったでしょうか。登山客に駅前や猿橋で配りました。それによって観光客やハイキング客がおつけだんごを知って実際に食べたということが多聞にありました。それも1つの観光的な取り組みだったのではないかなと思います。それに係わって3月23日におつけだんごとは何なのかということをもう少し考えてみようということで、おつけだんごの会がおつけだんごの基本形というものを1つ持っていて、その基本形をもう少し固めてみようという試食会を予定していますので、是非参加をしてみてください。これも1つの地域を知るための学習なのではないかなと思います。私の方から情報提供させていただきました。皆様からご質問などはないでしょうか。

●私からの案内・提案

●「おつけだんご」の基本形を考える試食会  
3月23日(水)20時～ 大月区民会館  
※さらに「おつけだんごの会」からのお知らせ  
①おつけだんごの料理教室  
②おつけだんご自慢の自産地菓

●「地域調査隊」の提案  
地域の美味しいものや逸品を探して、商店街で販売できないか？そのための地域情報を探すための「地域調査隊」を企画。

風味のある人は、問い合わせ用紙へ

### 【 質問者① 】

今日は4人の皆様ありがとうございました。特に杉本さんにお伺いしたいのですが、先程のお話の中に世代の申し送りや恩返しという言葉がありました。杉本さん以外の方でも新倉の方が同じ形で、私達が子供の時に地域の大人の方からいろいろ教わったので、それを今教えてくれています。梁川地区は今年いろいろな形で地域の皆さんにいろいろ教わって、地域を知り、いづらかでも地域に愛着を持てるようになったかなと思っております。そこで伺いしたいのは、市の学校適正化ということもありますけれども、子供達がだんだん少なくなっている現実があります。その中で、これからの子供達にそういった農業あるいは文化などを教えていくのに学校が地域に無い中で、地域としてどんな形でそれを伝承していけるか、もしお考えがありましたら教えていただければありがたいと思います。



### 【 パネリスト 杉本成司 氏 】

梁川にはいろいろ行事があります。公民館などを中心にお祭りをしたり、地区ごとにどんど焼きをしたりしています。また育成会が各地域に結成されております。そのような機会を捉えて大人達が子供達をリードしていくという方法が、これからはとられていくのではないかと思います。

### 【 質問者② 】

まず4人のパネリストの皆さん素晴らしいご発表をありがとうございました。皆さんの取り組みに、心から感謝と敬意を表したいと思います。まず、大豆の会の渡邊さんですけれども、先生がお話しされた農業の6つのドアすべてを満たしている部分があるのではないかと感じました。それから、杉本さんの素晴らしいパワー溢れる熱意と情熱ということについて、先程の質問の方に対しての育成会活動等を通してというご意見は、全くそのとおりだと私は思っております。是非頑張ってくださいと思います。私も今後少しでも見習う部分があって出来るところから地域に協力していきたいと改めて思いました。また、根岸さんは私が思っていたことをそのままやっておられた方がいたのかということをおもいました。といいますのは、大月に6つの駅がございます。その6つの駅でおいでくださった方々に、お茶でも

何でも提供することができないものかなと思っておりましてけれども、やられている方がいたのだということで、心から拍手をさせていただきたいと思います。また、おおつきエコビレッジさんは運営などが大変だと思いますが、中国野菜というところに引っ掛かってしまうのですけれども、気候的なところで合っているのかなと思っているのですが、よく大月はウコンの里などと言われています。この点が大豆それから中国野菜などウコンの里との関わりがあるのかなということが1点質問になるかと思います。あともう1つは、深城ダムの方のルートがありますが、そちらの方の方々とかあるいは間明野や桑西などの大変失礼な言い方で申し訳ないのですが、沿線から少し中に入った地域の方との関わりも考えていかれることがお有りかどうか。といいますのは、エコビレッジの山田さんが桜祭りというお話をされました。大月の広報で御伊勢山と岩殿山の桜祭りというのがあったのですが、そちらとの関わりが何かあるのかなというようなことが質問になります。

【 パネリスト 山田政文 氏 】

まず、中国野菜についてですが、今中国からの観光客の方がすごく増えています。日本で一番行きたいところが北海道、次に富士山を見たいということです。大月はそういった観光地に近いということで中国から来る観光客の方にそういった物を提供できれば特産品になるのではないかとこの取り組みの考えで、市の方と考えを同じにしているつもりです。もう1つ桜祭りですが、私どもは河津桜そして彼岸桜とか最後に山桜ということで長い期間桜が楽しめますよというようなそちらとはまた違うような雰囲気、大月には岩殿山がありますけれども、大野の貯水が昔からありますが、東部の方で残念ながら無かったので、せっかく山林がありますので有効活用したいということで行いました。ウコンも最初は作ったのですが、非常に手間がかかり、私どもの生産能力が低いのか大変な状況がありまして、今は栽培していない状況にあります。

【 パネリスト 根岸光子 氏 より情報提供 】

この会場に来てくださっている「ワダレイコ」さんという方がいるのですが、味噌作りや納豆作り、豆腐作りなどを一生懸命教えてくださっています。

【 佐藤コーディネーター 】

地域にはまだまだ私達が知らないような、工芸品を作ったり、食材を持っていたり、美味しい加工品を作ったりしていると思います。そういったものを皆さんで共有できたらこれがまさに観光資源に繋がっていくのではないかと思います。

【 情報提供 】

観光についてですが、スカイツリーを作っていますが、その高さが「ムサシ」ということで634メートル。この会場の方も知っている人が多いかもしれませんが、岩殿山の高さと同じなんです。私はこれが結構いけるのではないかと考えております。

【 佐藤コーディネーター 】

ありがとうございます。駅などにそういった情報提供があったと思います。このように皆さんが知っているようで知らないことが結構あったりします。こういったもので生涯学習を通じて地域起こしができたらと思いました。それでは、最後にパネリストの方から一言だけ

今回のことと言い足りないことや最後の結びのコメントなどがございましたらお話いただいて終わりにしたいと思います。では渡邊さんからお願いいたします。

【 パネリスト 渡邊勲 氏 】

実は納豆につきましているいろいろ調べましたら、山梨県には石和に1社ございまして、あとは大月だけです。非常に限られた生産地でございますので、私達も一緒になって特産品から逸品に育てたいと思いますので、是非かわいがっていただきたいと思います。宜しく願いいたします。

【 パネリスト 杉本成司 氏 】

私は食育ということをおあまり知りませんでした。知っていたとしたら、最近の子供達はよく太るなどか、あるいは成人病が多いくらいのことしか知らなかったのですけれども、今回給食センターに食材を出して本当にいい勉強になりました。ありがとうございました。

【 パネリスト 根岸光子 氏 】

観光ボランティアは年齢制限がありません。何歳で辞めてくださいということはないので、この中にご希望の方がいらっしゃいましたら市の観光課へ申し付けてどんどんと一緒にやっていきましょう。お願いいたします。

【 パネリスト 山田政文 氏 】

先程、おもてなしの心という言葉がありました。私は、日頃から考えておりますが、分かっているようで分かっていないのが、おもてなしの心だと思います。というのは、県内の温泉に行きますと市外料金、市内料金というのがございます。これを私どもは我慢したとしても、都内からは有料道路を使って来るわけで、それが温泉の入口で市内、市外を露骨にやられてしまっています。長野県では、同一料金だそうです。その辺のところが出来ないのに簡単におもてなしの心と言っていいのかなと思っておりますので、是非皆さんも一緒に考えていただきたいと思っております。宜しく願いいたします。

【 佐藤コーディネーター 】

そろそろお時間になりました。この第2部のまとめとして3つ挙げさせていただいてこのシンポジウムを閉じさせていただこうと思います。

1つ目は大月の農業資源は観光資源に成り得るだろうという感じがします。

ただ、2つ目ですがそこにはもっと私達が外部の人達の意見を取り入れながら農業や観光あるいは食について学んで行かなくてははいけない。しかも楽しく生き活きと生涯学習に繋がるような形で取り組んでいくことが必要ではないかと思えます。

そして3つ目は、そうした機会を行政頼みではなくて、我々や皆さんが作っていくということが「ふるさと大月の未来を創造しよう」ということに繋がっていくのではないかと思えました。

この3点を挙げさせていただいてこのシンポジウムを閉じさせていただこうと思います。パネリストの皆さん、会場の皆さんどうもありがとうございました。

# 第49回大月市生涯学習推進大会

## 〈 アンケート用紙 〉

お忙しいところ、ご参加くださいますありがとうございます。  
今後の参考とさせていただきますので、以下の問いにお答え下さい。

### ◎ あなたご自身について教えてください。【該当するものに○印】

男性・女性 ( 10歳代～20歳代 30歳代～40歳代 50歳代～60歳代 70歳代以上 )

#### 1) ご職業はどれに当てはまりますか？

ア. 自営業 イ. 勤め(全日) ウ. 勤め(パート・臨時) エ. 学生  
オ. 専業主婦 カ. 無職 キ. その他( )

#### 2) 今回の大会を何で知りましたか？

ア. 広報おおつき イ. チラシ ウ. 新聞記事 エ. 学校からの案内  
オ. 公民館からの案内 カ. 所属団体からの案内 ク. その他( )

#### I 大会に参加した動機について教えてください。

- ① 農業や観光に関心があるから
- ② 取り組んでいる課題に直接的に役立ちそうだから
- ③ 仕事や地域活動の参考になる情報が得られそうだから
- ④ 生涯学習全般に興味があるから
- ⑤ コーディネーター・パネリストに関心があるから
- ⑥ 発表内容に関心があるから
- ⑦ 公民館や学校等から案内があったから
- ⑧ その他( )

#### II 全体構成や日時設定などはいかがでしたか？【該当するものに○印】

- ① 開会行事が長すぎる
- ② シンポジウムが短すぎる
- ③ シンポジウムが長すぎる
- ④ ちょうど良い
- ⑤ 午前実施してほしかった
- ⑥ その他( )

#### III 今回のフォーラムは、全体としていかがでしたか？【該当するものに○印】

- ① とてもよかった ② よかった ③ どちらともいえない ④ 不満だった ⑤ とても不満だった
- ご自由にお書き下さい。(枠が足りない場合は、裏面に記入をお願い致します。)

ご協力ありがとうございました。

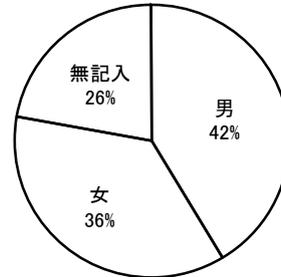
# 第49回大月市生涯学習推進大会 アンケート結果

アンケート件数:176

◎ あなた自身について教えてください。

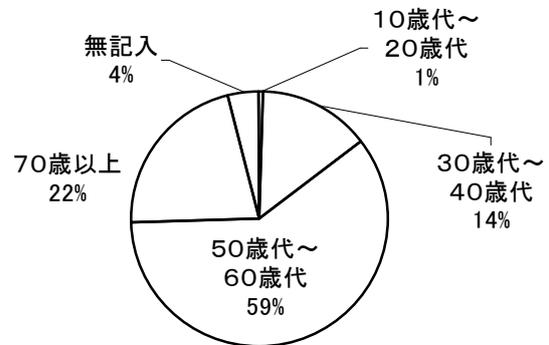
(性別)

男	73
女	64
無記入	39



(年代)

10歳代～20歳代	1
30歳代～40歳代	25
50歳代～60歳代	105
70歳以上	38
無記入	7



1) ご職業はどれに当てはまりますか？

ア	自営業	13
イ	勤め(全日)	43
ウ	勤め(パート・臨時)	7
エ	学生	1
オ	専業主婦	45
カ	無職	52
キ	その他	11
	無記入	4

2) 今回の大会を何で知りましたか？

ア	広報おおつき	46
イ	チラシ	12
ウ	新聞記事	1
エ	学校からの案内	23
オ	公民館からの案内	55
カ	所属団体からの案内	55
ク	その他	12
	無記入	0
	二つ以上回答	28

1) ご職業はどれに当てはまりますか？

■その他に当てはまり、記入された内容

- ・ 農業
- ・ 大月市議
- ・ 公務員
- ・ 自由業
- ・ 旅館

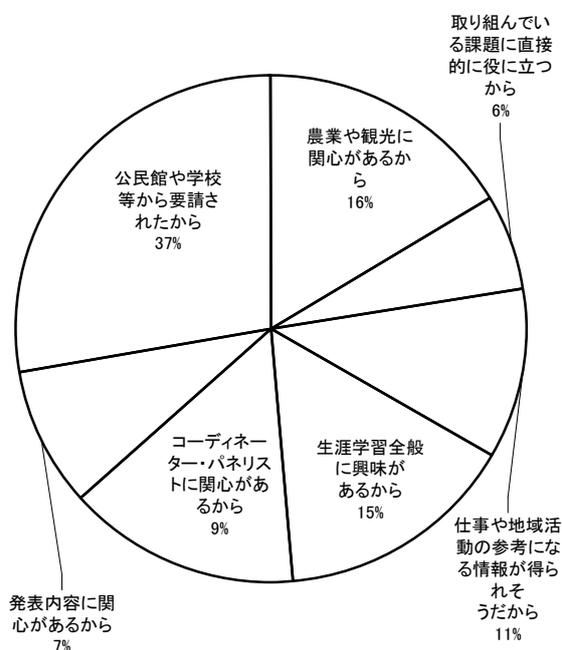
2) 今回の大会を何で知りましたか？

■その他に当てはまり、記入された内容

- ・ パネリストから
- ・ 知人
- ・ 町会より区長から
- ・ 市役所より
- ・ クラブ活動から
- ・ 民生委員

I 大会に参加した動機を教えてください。【複数回答可】

①	農業や観光に関心があるから	44
②	取り組んでいる課題に直接的に役に立つから	16
③	仕事や地域活動の参考になる情報が得られそうだから	29
④	生涯学習全般に興味があるから	41
⑤	コーディネーター・パネリストに関心があるから	39
⑥	発表内容に関心があるから	24
⑦	公民館や学校等から案内があったから	74
⑧	その他	6
	無記入	2
	二つ以上回答	99



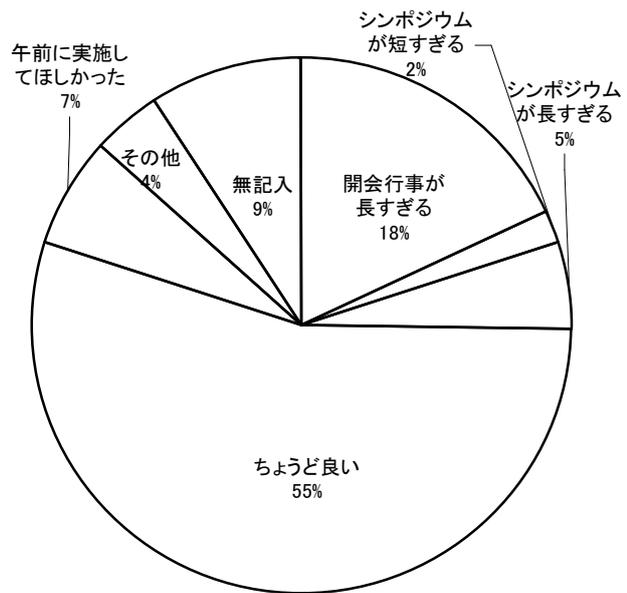
■その他に当てはまり、記入された内容

- ・ 祖母が出ている
- ・ 昨年も参加してパネリストの方々のお話が興味深かったので

- ・ 大月市発展の為に何らかの形で役に立ちたいと思い

## II 全体構成や日時設定について【複数回答可】

①	開会行事が長すぎる	35
②	シンポジウムが短すぎる	4
③	シンポジウムが長すぎる	10
④	ちょうど良い	106
⑤	午前を実施してほしかった	13
⑥	その他	8
	無記入	18
	二つ以上回答	18

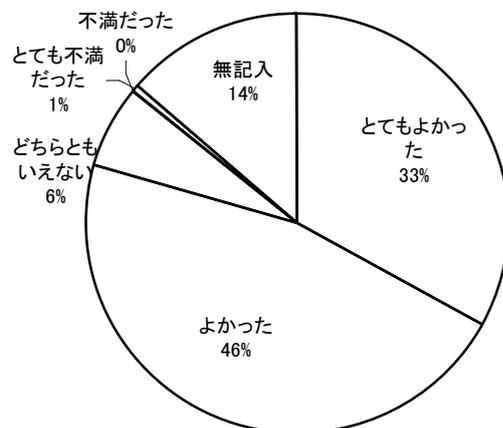


### ■その他に記入された内容

- ・ アトラクションは無くても良いと思う。
- ・ 小学校低学年の子がいるので保育ルームの設置があると助かります。
- ・ 若い世代は参加しにくいと思います。
- ・ アトラクション他、時間厳守してほしい。
- ・ パネリストは3名位で？
- ・ 内容はいいが長い。
- ・ ちょうど良いが、人の集中できる時間はおよそ1時間とっている。
- ・ 少し長い。

## III 今回の大会は、全体としていかがでしたか？

①	とてもよかった	58
②	よかった	82
③	どちらともいえない	11
④	不満だった	0
⑤	とても不満だった	1
	無記入	24



## ■ 自由記入欄

- ・追分人形の動きがおもしろい。←何がしたいのかがよくわからない(笑)。1つひとつの動作がすごい。タイムスリップしたよう。大月のコトを知ることができた。猿橋のコトがよくわかった。
- ・大月市を活性化させるよい学習の機会となったと思います。ありがとうございました。
- ・シンポジウムがとてもよかったです。発表も具体的でどの方もわかりやすく興味深く聞くことができました。今は自分の生活だけでいっぱいですが、将来はこうありたいと思いました。進行の先生のお話もわかりやすくよかったです。
- ・自宅にも休耕地がありますが、平日は会社勤務という事もあり全く手つかずの状態です。本日のお話をうかがい何かしたいと思いましたが、農業のノウハウがありませんので、そういった問題を解決せねばと思いました。その意味ではエコの里さんの活動などを勉強させて頂きたいと思いました。
- ・それぞれの方々の熱い想いが伝わってきて感動しました。
- ・これからの大月の未来についてたくさんの可能性があることを知り、うれしく思いました。多くの方々が陰でがんばっていることを知り、私も何かできたらと思いました。
- ・パネリストの皆さんの力強い発表がとてもよかった。今年は学校関係の役員ということで参加させていただいたのですが、来年も聞きに来たいと思いました。
- ・パネリストの方々も日々学んでおられるとのこと。さすがだなと思いました。みなさん本当にエネルギーがすごい。生き生きさせてステキでした。
- ・大月について、いろいろなことを学ぶことができました。関心を持ち子どもたちに伝えていきたいと思いました。
- ・大月でも色々な方面の方が活動されていることを知りました。梁川小の保護者ですが学校農園で学び子どもにとっても響いたと思います。
- ・生涯学習と地域の観光資源を結びつけて考えていく今日のシンポジウムはとても興味深いものであった。
- ・「猿橋」の観光パネリストがとても良かった。猿橋は“日本三奇橋”なのでもっともっと山梨全体・全国に広めたいと思いました。
- ・パネリストの方々みなさんすばらしい活動をしていることと、人柄も温かく、大月にはすばらしい活動をしている方がたくさんいることを知り嬉しく思いました。
- ・農業もいいが、ガーデニングなども人気があるので何か取り組みができないかな？などと考えました。
- ・パネリストの方々のすばらしい活動に感動しました。私も意識を持ち生活していきたいと思えます。
- ・根岸さんの紙芝居の案、このたぐいの取組、大いに同感です。私も参加したいな！と思えます。観光ボランティア私もやってみようかなと思いました。
- ・色々なアイデアで農業と観光を結びつけたい。桂川ウェルネスパーク、エコの里などがある扇山の麓や百蔵の麓(宮谷)などを結びつける。スマートインターの設置をすることでより多くの客を大月に呼び入れられるのではないか。農業生産者の販売場所も広がるのではないか。さらに山や川をつなぐことも考えたい。
- ・初めて参加しました。パネラーの皆さんとてもすばらしい取り組みをしておられる方々で、自分は感心するばかりでした。中でも杉本成司さんの発表の中で、自分は「先輩から受け継いだ事を次世代に伝える事が大事だ」との言葉がありました。この言葉が当たり前だと思っても中々出来る事ではありません。肝に命じます。

- ・大月市を愛している事が肌で感じた。農業は観光資源になると思うというのも今回のシンポジウムと山日新聞等で強く感じた。
- ・追分人形は良かった。開会のあいさつは1人ぐらいで良い。
- ・大月とは、自然に恵まれていて素晴らしいところです。楽しく農業をしていきたいと思えます。
- ・発表者が内容、発表の仕方等とてもよかった。発表者の皆さんに活動に敬意を表します。
- ・皆様熱心に頑張っているのですばらしいと思いました。
- ・市内の街づくりに役立っている他のグループの発表も聞きたい。
- ・発表者が皆、生き生きとして発表していた。大月市の中にたくさんの財産やチャンスがあることを教えてもらった。
- ・今は仕事と介護で自分の時間がとれません。しかし大月のために頑張っている先輩方がいることを知り、勇気と元気と希望が持てました。元気で頑張ろうと思います。ありがとうございます。これからの子供達のために住みやすい大月になってほしいと思います。
- ・本日のパネリストの方々のエネルギッシュな活動を知り素晴らしいと思いました。皆さん私より年長の方で自分ももっと自分にも出来る事を探してみたいと思います。
- ・参考になる部分は活用していきたい。
- ・パネリスト1人ひとりの情熱が伝わってきた。こうした熱意が市民に伝わり大きなmovementとなることを期待しています。
- ・農業について、改めて勉強させて頂きました。パネリストの皆様の平素からの御努力からの御意見に深く感動致しました。有難うございました。
- ・どなたも元気で輝いていて素敵でした。
- ・知らなかった大月市の農業、観光等生涯学習にふさわしい内容でした。時間の経つのも忘れた有意義な大会でした。
- ・コーディネーター、パネリストの皆様のはざれ良く、聞きやすく共感できました。
- ・大月の未来を考える上で、農業、観光を通じた交流が人づくりであり、地域づくりでもあり大月の街づくりの大きな1つの柱になるという思いを強くした。
- ・今回参加し参考になりました。
- ・こんなに熱心に行っている方々がいるのに感心しました。元気な大月がありました。笹子追分人形も良かったです。
- ・大月の知らなかった事をたくさん勉強できました。これからも続けてください。
- ・パネリストの人達の発表が素晴らしかった。わかりやすく熱心さが伝わった。
- ・生涯学習の意味が良くわかりました。

- 話がおもしろく、ためになった。
- 演出が良かった。
- 子育て層、若年層の参加は難しいと思うが、市や教育を変えていく力となるのは今日の参加者層は高いのでは。
- エコの里の千本桜、是非見に行きたいと思いました。
- パネリストの皆様の体験すばらしかった。
- エコの里の発表がとてもよかったです。今後の活動に期待します。小麦粉も黒米も他から買っていますが、今後はエコの里で買いたいです。
- 関係者の努力に敬意を表します。
- パネリストの音声が大きく不快だった。
- パネリストの発表がそれぞれ大変素晴らしかったと思います。ありがとうございました。これからも宜しくお願いします。
- 折込チラシが良かった。自由参加が気楽に出来た。
- 勉強させて頂きました。来年も参加させて頂きます。
- おつけだんごのことはもっと考えてもよいと思う。
- 具体的で解り易く理解できた事が沢山ありました。
- 農業専門のため生涯学習の性格を有していない。
- パワーあふれるパネリストの方々に感動しました。遊休農地がどんどん広がるので、納豆は大変良いことですし、味噌用の大豆も増産して大月の名産品にしたら良いと思います。
- シンポジウムはあまり聞いている人がいない。来年はやめた方がいい。
- すばらしい取り組みと思いました。

## 第49回大月市生涯学習推進大会参加者集計表

所属団体等	合 計	
公民館 (分館含む)	笹 子	33
	初 狩	13
	真 木	24
	大 月	24
	賑 岡	45
	七 保	17
	瀬 戸	8
	猿 橋	41
	富 浜	33
	梁 川	6
青少年育成団体	5	
文化協会	12	
体育協会	9	
社会福祉協議会	14	
老人クラブ連合会	19	
体育指導委員協議会	0	
小中学校	91	
PTA連合会	14	
観光協会	0	
青年会議所	0	
商工会	0	
おおつき女性交流会	1	
男女共同参画推進委員会	4	
大月商店街協同組合	0	
ボランティア協議会	0	
民生委員児童委員協議会	22	
個人・その他の団体等	34	
主催者 (教育委員・社会教育委員・公民館長)	22	
来賓者	11	
シンポジウム出演者 (コーディネーター・パネリスト)	5	
アトラクション出演者 (笹子追分人形保存会)	7	
市関係者(職員・主事他)	28	
総 計	542	